

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業（がん政策研究推進事業））
分担研究報告書

臨床栄養スタートアップ講座教育プログラム開発に関する研究

研究分担者 長谷川 裕紀

武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 講師

研究要旨

「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムの開発において、広域大学連携事業のノウハウをいかした症例検討グループワークの企画・開発を行った。グループワークで他職種と意見交換を行うことや、他グループの検討内容を共有することで、高い教育的効果が得られることがわかった。在宅がん患者に対し多職種が連携して対応することにより、総合的な栄養サポートが可能となる。

A．研究目的

在宅がん患者に対して包括的な栄養サポートを実施するためには、医師、薬剤師、管理栄養士など多職種の連携が必要である。多職種連携により在宅がん患者の様々な問題に対応することが可能となり、栄養サポートの質を高めることができる。しかしながら、専門職が連携して取り組むためには、専門用語や背景知識の違いを考慮しながら情報を共有することや、チームで患者に対応するための協調的な行動など、専門知識だけではなく「チームで働く力」も必要となってくる。

そこで、本研究では平成 20 年度文部科学省戦略的大学連携支援事業に採択された広域大学連携事業（ 1 ）での異分野融合教育プログラムのノウハウをいかし、多職種参加型のグループワークを企画・開発する。そして、「臨床栄養スタートアップ講座」で試行することで改善点を抽出する。

B．研究方法

1）多職種参加型のグループワークの企画・開発

「臨床栄養スタートアップ講座」教育プログラムを開発するうえで、「在宅医療をチームで担う人材の育成」を 1 つの目標とし、プログラムに多職種参加型のグループワークを取り入れる。スタートアップ講座の参加者を 1 グループ 5,6 名に分け、さらにグループのメンバーが「多職種」となるように割り当てる。グループにはノートパソコンを 1 台用意し、グループで検討した症例課題の内容をパワーポイント数枚にまとめる。最後に全体で発表会を行い、質疑応答をすることで各グループにおいて検討した内容を参加者全員で共有できるようにする。

2）症例課題の内容

低栄養の在宅高齢者を症例（ 2 ）とし、課題を以下の 2 点とした。

栄養学的な課題を 3 つ以上あげる

短期的および長期的目標の設定

参加者はあらかじめこの 2 点について自身の考えをまとめてから、スタートアップ

講座を受講する。

3) アンケート調査の実施

スタートアップ講座を受講した参加者にアンケート調査を行い、その中から自由記述回答においてグループワークに関するコメントを抽出する。

(倫理面への配慮)

「個人情報保護法」を遵守した。アンケートは無記名の用紙で実施し、匿名化されており倫理面での問題はない。

C. 研究結果

1) 症例検討グループワークの実施

平成 26 年 11 月 30 日(日)に開催した「臨床栄養スタートアップ講座」において、症例検討グループワークを実施した。参加者を 4 グループに分け、必ず各グループに医師と管理栄養士が含まれるように割り当てた。参加者は約 90 分間のグループワークで 2 点の課題について検討し、そのまとめをグループの代表者が約 5 分で参加者全員に向けて発表した。課題に対する各グループの検討内容は大まかに以下の通りであった。

栄養学的な課題

- ・低栄養(鉄欠乏性貧血、ビタミン B12 吸収障害による悪性貧血)
- ・食欲低下(抗がん剤の副作用による)
- ・体重減少、筋力低下
- ・脱水
- ・糖尿病
- ・高血圧症

短期的目標

- ・少量頻回食の食事指導
- ・栄養補助食品を取り入れる
- ・サルコペニアの防止

- ・糖尿病治療薬の選択

長期的目標

- ・食事指導(栄養状態の維持)
- ・貧血の回避
- ・適度な運動による筋肉量の維持・増加
- ・血糖のコントロール(低血糖発作回避)
- ・QOL の維持

3) アンケート結果

症例検討グループワークに関して以下の回答内容があった。

- ・開業医の先生や糖尿病専門医の先生と多方向の意見交換が出来きて、勉強になりました。
- ・グループワークでは、様々な視点からの話を聞くことができ、大変参考になりました。

D. 考察

本研究では、多職種参加型の症例検討グループワークを企画・開発し、「臨床栄養スタートアップ講座」において試行した。グループワークは、参加者が主体的にかかわりながら、現場にある実践的な課題を仮想のチームで解決を図っていく点で講義形式の座学とは違いがある。より教育的効果の高いグループワークを実施するためには、以下の点への考慮が重要である。

- ・グループメンバーが「多職種」の構成となるようなチーム作り
- ・グループメンバーから意見を引き出し、活発な意見交換となるような適正な人数の検討
- ・グループ内での意見交換に留まらずグループ間において検討内容を共有する方法をとる(発表会、質疑応答)

多職種参加型のグループワークは、他の専門職との意見交換によって多様な視点や方向性が得られることに特徴があり、その有意義性をいかすためのポイントとしてグループ編成や人数面での配慮が挙げられた。在宅がん患者は様々な問題を抱えている場合があることから、来年度は「臨床栄養スタートアップ講座」においてがんと栄養を体系的に学習できるプログラムに改善を図り、在宅がん患者に対する栄養サポートの質の向上および QOL の向上に寄与できる教育プログラムに発展させていく。

E . 結論

多職種参加型のグループワークにより、在宅がん患者に対する総合的な栄養サポートをチームで担う医療・福祉系人材を育成が可能となる。

G . 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

(1) 広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成教育プログラム

<http://www.amei-kouiki-u.jp/index.html>

広域大学連携事業では異分野(栄養、薬学、臨床工学、理学療法、作業療法、医療福祉工学など) の学生同士でグループを編成し、テーマに沿ったグループワークと発表会を

行う「多職種協働グループワーク実践論」を開講している。専門性の異なる学生とのディスカッションでは、自分の考えや意見をわかりやすく伝える「発信力」や他の学生の考えを聴く「傾聴力」が必要である。また、多様な考えを共有しながらチームとしてまとめる難しさ、他分野の学生とのかかわりの中で自分の専門性をどのようにいかしていくのかなど、チームで協働しながら自らの専門性を再認識する機会となり、教育的効果の高い科目になっている。

(2) 症例課題の内容

添付資料

資料 1 : 臨床栄養スタートアップ講座チラシ

資料 2 : 症例課題の内容

資料 3 : グループワークのまとめ資料